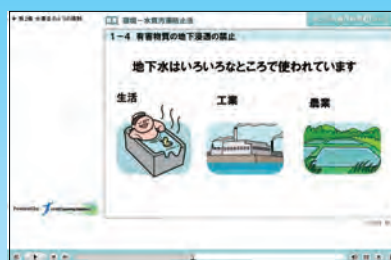


『工場の安全と環境を守るeラーニング』

基礎シリーズ（全16講座）

大手化学工業会社の製造現場のスタッフたちが中心となって、
「職場の安全と、地球の安全を守るために」開発したeラーニングコース



- わかりやすく、学びやすいデザイン
- すぐ仕事に役立つ知識が満載

制作・著作／三井化学株式会社

発売元／株式会社TOASU

16コース タイトル一覧

- 高圧ガス保安法 1 （目的・定義編）
- 高圧ガス保安法 2 （設備基準編）
- 高圧ガス保安法 3 （保安管理編）
- 高圧ガス保安法 4 （申請編）
- 消防法 1 （概要編）
- 消防法 2 （設備基準編）
- 消防法 3 （管理基準編）
- クレーンの取り扱い
- 水質汚濁防止法
- 大気汚染防止法
- 安全配慮義務及び安全遵守義務
- 工場における毒劇物管理
- 化学設備、特定化学設備の取り扱い
- ボイラー及び圧力容器の取り扱い
- 廃棄物関連法
- 悪臭・騒音・振動規制法

「工場の安全と環境を守るeラーニング」基礎シリーズ コース詳細

本教材は、音声・動画付きのHTMLコンテンツです(ナレーション字幕付き)。

※各コース内の、1章あたりの学習時間は5～10分です

1 高圧ガス保安法1(目的・定義編)	全6章
1章 高圧ガスの危険性 2章 高圧ガス保安法の法体系 3章 高圧ガスの定義 4章 その他高圧ガスの定義 5章 高圧ガスの適用除外 6章 高圧ガス設備規制の範囲	高圧ガスを使用するためにはどうすればよいかを知り、事故事例から高圧ガスの危険性を学びます。 高圧ガス保安法に関連する法令をとりあげ、それぞれの関係を学びます。 高圧ガスの定義と使用物質の定義を学びます。法令に沿った判断の基本になります。 特に危険なため、高圧ガス保安法が規制する毒性ガス、特定高圧ガスについて学びます。 高圧ガスに該当するものでも、高圧ガス保安法の適用を除外されるものを学びます。 高圧ガス設備に関わる規制のうち、製造現場に関わりが深いものを紹介します。
2 高圧ガス保安法2(設備基準編)	全6章
1章 設備基準とはどんなこと？ 2章 法定設置設備(監視装置) 3章 法定設置設備(安全装置) 4章 耐震設計が必要な設備と緊急遮断弁 5章 電気設備の防爆性能 6章 保安用設備	設備基準編の内容を説明し、保安距離とは何か、どのようにして決められているかを学びます。 温度計や圧力計を設置する理由と、どのような場所への設置が決められているのか学びます。 ガス検知器を設置する場所や種類を知り、安全弁、自動制御装置の働きについて学びます。 耐震設計が必要な設備と設計の概要、地震が起こったときの対策や緊急遮断弁について学びます。 高圧ガス設備内で使われている電気設備の防爆性能と、爆発防止のための基準を学びます。 高圧ガス設備の規制のうち、製造現場に関わりが深いものについて紹介します。
3 高圧ガス保安法3(保安管理編)	全6章
1章 保安管理とは？ 2章 自主保安認定制度とは？ 3章 保安管理システム 4章 安全性評価 5章 防災活動・環境安全監査 6章 運転管理	保安管理の基本姿勢である「保安管理」とは何かを学習します。 自主保安認定を取得することで得られるメリットと、自主保安認定の取消し要件について学びます。 保安管理システムによって、工場の安全がどのように保たれているのか学びます。 安全性評価とは何かを知り、安全性評価する方法を学びます。 防災活動を項目別に整理し、環境安全監査の目的とねらいを理解します。 運転管理で挙げられている項目と、それらを管理する理由を学びます。
4 高圧ガス保安法4(申請編)	全6章
1章 申請とは？届出とは？ 2章 各種手続きの流れ 3章 製造の許可申請・届出 4章 変更申請を行う範囲 5章 軽微変更、溶接補修の事前届出 6章 危害予防規程	未申請・無届は、社会的信用をなくすことがあります。申請と届出の違いを知りましょう。 各種手続きの流れを学びます。 高圧ガスの製造の申請と届出、両者の違い、そして製造許可の申請ができないケースを学びます。 設備変更や新しい物質を追加する場合の申請について、具体的に学びます。 軽微変更を行う際の流れと、溶接補修の事前届出について学びます。 公共安全の維持と災害発生防止の基本、危害予防規程の考え方と規程に掲げる事項を学びます。
5 消防法1(概要編)	全5章
1章 消防法とはどんな法律か 2章 消防法の法体系 3章 危険物とは何か 4章 危険物施設の種類の 5章 危険物規制の概要	消防法とはどんな法律か、工場でなぜ消防法が適用されるのかを学びます。 消防法の法体系とその概要を学びます。 消防法が定める危険物と、その種類を学びます。 危険物施設にはどのような種類があるのか学びます。 危険物の取り扱い、その形態や量によって規制が異なることを学びます。
6 消防法2(設備基準編)	全5章
1章 危険物施設の設置 2章 危険物施設共通の安全技術基準 3章 屋外タンク貯蔵所固有の安全技術基準 4章 火災予防条例関係の安全技術基準 5章 消火設備の技術基準	危険物施設を設置する場合の保安距離や、保有空地について学びます。 危険物施設全体に共通する安全技術基準について学びます。 屋外タンク貯蔵所に固有の、安全技術基準について学びます。 火災予防条例について学び、その目的を知ります。また少量危険物等の貯蔵、取り扱いを学びます。 危険物施設に設置する、消火設備について学びます。
7 消防法3(管理基準編)	全6章
1章 危険物施設の設置・変更等の手続き 2章 危険物施設の各種検査 3章 危険物取扱者 4章 危険物保安監督者等 5章 予防規程 6章 定期点検と保安検査	危険物施設の新規設置、既存施設の改造や、機器・配管の取り替えなどの際の法的手続きを学びます。 危険物施設の設置・変更の際の、工事完了前後に行われる各種検査について学びます。 危険物取扱者制度の概要と、危険物取扱者の責任・義務・心構えについて学びます。 危険物施設の保安監督者等の業務について学びます。 法律で定めなければならない予防規程。プラントの安全を確保するものです。 危険物施設の安全確保のために、定期点検および保安検査が果たす役割の重要性を学びます。

8 クレーンの取り扱い	全3章
1章 クレーンの必要性と概要	クレーンの歴史/必要性/定義と種類(天井クレーン、テルハ、スタッカークレーン)を学びます。
2章 クレーンの危険性	クレーン作業での事故やヒヤリ事例から原因を考え、安全に使用するポイントを学びます。
3章 クレーンを安全に使用するために必要な3つのこと	クレーンの運転業務に関わる、就業制限や点検の義務、使用上の規制を学びます
9 水質汚濁防止法	全6章
1章 水濁法の目的	水濁法の成立と目的、重要性を知り、届出の義務と排水処理の必要性を認識します。
2章 水濁法の6つの規制	水濁法の6つの規制を理解し、違反事例から影響の大きさと法令遵守の大切さを学びます。
3章 排水管理	不十分な処理で起こる現象を知り、個々のプラントで行う排水処理の大切さを学びます。
4章 排水基準①(健康項目)	水濁法で規制されている排水基準とは何か、健康項目とは何かについて学びます。
5章 排水基準②(生活環境項目)	排水基準を理解し、生活環境項目とはなにかを具体的に学びます。
6章 排水の総量規制制度	地域の実態に応じて定められる「上乗せ基準」「横だし基準」「総量規制制度」について学びます。
10 大気汚染防止法	全7章
1章 大防法の目的	大防法の成立と目的、重要性を知り、届出の義務と排ガス処理の必要性について学びます。
2章 大防法の5つの規制	大防法の5つの規制の重要性を、違反事例とその影響から学びます。
3章 排ガスの管理	排ガス処理の流れと不十分な処理で際起こる現象を知り、プラントの責務を自覚します。
4章 大気汚染物質①(ばい煙)	大防法で規制される排出基準、規制物質を知り、規制物質の1つ「ばい煙」について学びます。
5章 大気汚染物質②(揮発性有機化合物)	揮発性有機化合物を知り、法規制と自主的取組によるVOC削減目標について学びます。
6章 大気汚染物質③(粉じん)	大防法で規制されている粉じんについて知り、特定粉じんの危険性とその規制を学びます。
7章 大気汚染物質④(有害大気汚染物質)	有害大気汚染物質と優先取組物質について学び、処理設備や自主的削減努力について考えます。
11 安全配慮義務と安全遵守義務	全4章
1章 法の定める義務、法の成立経緯と目的	本コースの内容を概観し、この法令が成立した経緯と目的、学習に必要な用語について説明します。
2章 事業者の措置とは	労働災害防止のための事業者の措置、労働法に基づく事業者の責任と果たすべき義務を学びます。
3章 事業者の安全配慮とは	労働法に定める、事業者が果たすべき安全配慮義務について学びます。
4章 労働者の安全遵守とは	労働災害防止のため、労働者にも果たすべき義務があります。安全遵守義務の内容を学びます。
12 工場における毒劇物管理	全3章
1章 毒物及び劇物取締法	毒物・劇物の定義、この法令の目的、毒物劇物営業者の登録制度や、毒劇物譲渡の手続きを学びます。
2章 毒劇物の設備・管理基準	毒劇法で定められている、毒劇物を扱う際の設備や管理の基準を学びます。
3章 毒劇物の管理体制	毒物劇物取扱責任者の役割と毒物劇物危害防止規定の概要、事故の際の対応を学びます。
13 化学設備、特定化学設備の取り扱い	全2章
1章 化学設備、特定化学設備とはどんなもの？	化学設備、特定化学設備、特殊化学設備、管理特定化学設備の定義を学びます。
2章 化学設備、特定化学設備の届出・検査	化学設備や特定化学設備の届出と、検査の時期や方法、災害防止措置の定めについて学びます。
14 ボイラー及び圧力容器の取り扱い	全5章
1章 ボイラー則の成り立ち	ボイラーの発展からみるボイラー則の成り立ちと、ボイラー則の必要性について学びます。
2章 ボイラーとはどんなもの？	ボイラーの定義と種類を確認し、事故事例からその危険性と点検の重要性を学びます。
3章 圧力容器とはどんなもの？	圧力容器の定義と種類を確認し、事故事例や防災事例からその危険性について学びます。
4章 設置から廃止までの手続き	ボイラー及び第一種圧力容器の設置から廃止の流れ、申請や検査などの手続きを学びます。
5章 点検及び検査	ボイラー及び第一種圧力容器に関係する4つの点検・検査について学びます。
15 廃棄物関連法	全5章
1章 廃棄物処理法をとりまく法体系	廃棄物を巡る社会の動向、循環型社会形成の必要性、廃棄物処理法を取巻く法体系を学びます。
2章 廃棄物処理法1(概要)	法令の目的と制定までの歴史背景を知り、廃棄物の分類と、廃棄物処理法の対象を学びます。
3章 廃棄物処理法2(産業廃棄物の処理)	処理手続き、処理施設の維持・管理、保管基準、法令違反の際のペナルティについて学びます。
4章 廃棄物処理法3(特定有害産業廃棄物)	特定有害産業廃棄物であるPCBや石綿について知り、有害産業廃棄物の処理について学びます。
5章 その他の主要な法令	ダイオキシン対策法、バーゼル法、建設リサイクル法などリサイクル関連法令を学びます。
16 悪臭・騒音・振動規制法	全7章
1章 悪臭・騒音・振動 - 概論	環境基準と規制基準の違いを知り、実際の苦情例から感覚公害とは何かを学びます。
2章 悪臭防止法	悪臭防止法の内容を理解し、法を遵守する重要性を確認します。
3章 悪臭防止技術	悪臭防止の各種方策を学び、工場で働く者としての自覚を高めます。
4章 騒音規制法	騒音規制法の内容を理解し、法を遵守する重要性を確認します。
5章 騒音防止技術	騒音防止の各種方策を学び、工場で働く者としての自覚を高めます。
6章 振動規制法	振動規制法の内容を理解し、法を遵守する重要性を確認します。
7章 振動防止技術	振動防止の各種方策を学び、工場で働く者としての自覚を高めます。

教材価格

人数や期間を気にせず利用したい
自社のLMSに載せて利用したい



CD-ROMパッケージ製品ご購入

自社で利用するLMSやイントラネットへの導入、集合研修の教材としての活用など、社内のさまざまな場面でご利用いただけます。CD-ROMパッケージとなるため、ご利用人数や期間の制限はありません。また、法改正による内容変更があっても、一度ご購入いただいたコースは、改訂版を特別割引価格(50%OFF)でご購入いただけます。

1コース **100,000円** (税込110,000円)

※動作環境については、お問い合わせください。
※1配送につき、全国一律 送料700円(税込)。

社員のリカレント教育・スキルアップの
学習コンテンツとして利用したい



個人で受講できるオンライン配信

個人向けオンライン学習サービス「ASUBeTO Store (アスビトストア)」でも、全16コースを配信。受講コースの選択と申し込み、支払いの手続きは社員個人で完結でき、すぐに受講が可能なサービスです。受講証明のための修了証も発行できます。



ASUBeTO Store

<https://www.asubeto.jp/store/>



1カ月／1コース **1,000円** (税込1,100円)

※学習管理ができるLMSを利用したスポット配信も可能です。希望される場合は、ご相談ください。(受講人数10名様より承ります)

「見て、考えて、学ぶ」ビデオ教材『KY(危険予知)活動実践コース』も好評発売中!

ゼロ災への願いを込めて、工場の安全担当者が手がけた、
現場の人たちの安全にかける熱い思いが胸を打つビデオ教材

事故の再現ドラマと、実際の被災者インタビューからなる全4章構成(25分)。
職場の安全を守る危険予知活動の重要性を認識し、実践へとつなげます。
アンケート、KY基礎チェックテストの印刷・配布も可能です。

価格 (DVD-ROM 1枚)

100,000円 (税込110,000円)

POINT
1

迫力のドラマ

迫力ある映像、心を打つストーリーが
学習者の注意を喚起し、KY活動実践の
モチベーションを育みます。

POINT
2

実践ノウハウ

「自分だけは大丈夫」という思い込みを
払拭し、組織全体で取り組むKY活動
の実践方法を学びます。

POINT
3

明確な学習効果

eラーニングシステムによるテスト・
アンケートも可能。学習効果の評価・
分析もスピーディにできます。



お問い合わせ、資料請求など、お気軽にご相談ください。

電話でのお問い合わせ
受付時間: 平日9:00~17:00

03-6431-1411